

多面版SDGsローカル指標の活用と普及に 関する検討について

令和 5 年 3 月 15 日

農 林 水 産 省

目 次

1. 過年度調査における検討概要		1
2. 令和4年度の検討内容について		1
(1)SDGsの理解醸成を通じた取組及び活動組織の活性化のプロセスの整理		2
(2)令和4年度調査の概要		3
3. 令和4年度調査結果		4
(1)先進事例調査(静岡県)		4
(2)モデル地区調査(新潟県新潟市、長野県伊那市)		10
(3)SDGsアイデアシート試行調査		17
4. その他の取組		22
5. 今後の進め方(案)～来年度の方針～		23

1. 過年度調査における検討概要

多面版SDGsローカル指標（一部抜粋）

【令和2年度】

- ①「持続可能な開発目標（SDGs）」と本交付金の活動目標が、持続可能な社会を目指す点において共通しており、親和性が高いことを確認。
- ②本交付金の具体的な活動内容とSDGsの目標・ターゲットの関係を示す「多面版SDGsローカル指標」を作成。

【令和3年度】

- ①毎年報告される実績報告を基に、地方自治体等を単位とした「活動量評価」を算定。
- ②活動組織がSDGsの目標毎の貢献度を確認できる「多面的機能支払SDGsアイディアシート」（以下、SDGsアイディアシート）を作成。
- ③活動量評価やSDGsアイディアシートの試行調査等により、SDGsへの貢献度を認識できるとの評価の一方で、SDGsが地域に浸透しておらず、**活動組織や地方自治体の状況を踏まえ段階的に活用をしていく必要があることが明らかとなった。**
- ④大学生に対するアンケート調査から、地域共同活動のSDGsへの貢献をPRすることは、学生に対して地域の共同活動に興味を持つきっかけとなることが示された。

目 標	ターゲット(達成目標)	本交付金の活動	
		指 標	
6 安全な水とトイレを世界中に 地域における水質を保全する	【6.3】汚染を減らす。ゴミが捨てられないようにする。有害な化学物質が流れ込むことを最低限にする。処理しないまま流す排水を半分に減らす。世界中で水の安全な再利用を大きく増やすなどの取組によって、水質を改善する。	水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 ◆水質保全(畑からの土砂流出対策)に取り組む組織数(様式2-4) ◆水質保全(その他:水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等)に取り組む組織数(様式2-4) ◆景観形成等、施設等の定期的巡回点検・清掃に取り組む組織数(様式2-4) ◆本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組む組織数	
13 気候変動に具体的な対策を 気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する	【13.1】気候に関する災害や、自然災害が起きたときに、対応したり立ち直ったりできるような力をすべての国でそなえる。 【13.3】気候変動が起きるスピードをゆるめたり、気候変動の影響に備えたり、影響を減らしたり、早くから警戒するための教育や啓発を、より良いものにし、人や組織の能力を高める。	災害に対する強靱性、対応力を強化する。 ◆農地維持支払に取り組む組織数(様式2-4) (農地維持に取り組む組織では異常気象時の対応を実施) ◆水田貯留機能増進に取り組む組織数(様式2-4) ◆増進活動(地域住民による直営施工)に取り組む組織数(様式2-4) 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ◆増進活動(防災・減災力の強化)に取り組む組織数(様式2-4) ◆地域住民等との交流活動を実施している(地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図っている)組織数	

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)（一部抜粋）

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実績報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I. 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

6 安全な水とトイレを世界中に

【目標6】地域における水質を保全する。

6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。

- ☐ 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる《水質保全》※
- ☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等に取り組んでいる《水質保全》※
- ☐ 施設等の定期的巡回点検・清掃に取り組んでいる《景観形成・生活環境保全》※
- ☐ 本交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる
- ☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください)

活動内容:

13 気候変動に具体的な対策を

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する。

13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。

- ☐ 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》
- ☐ 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》
- ☐ 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる《水田貯留機能増進》※
- ☐ 地域住民による直営施工に取り組んでいる《増進活動》※
- ☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

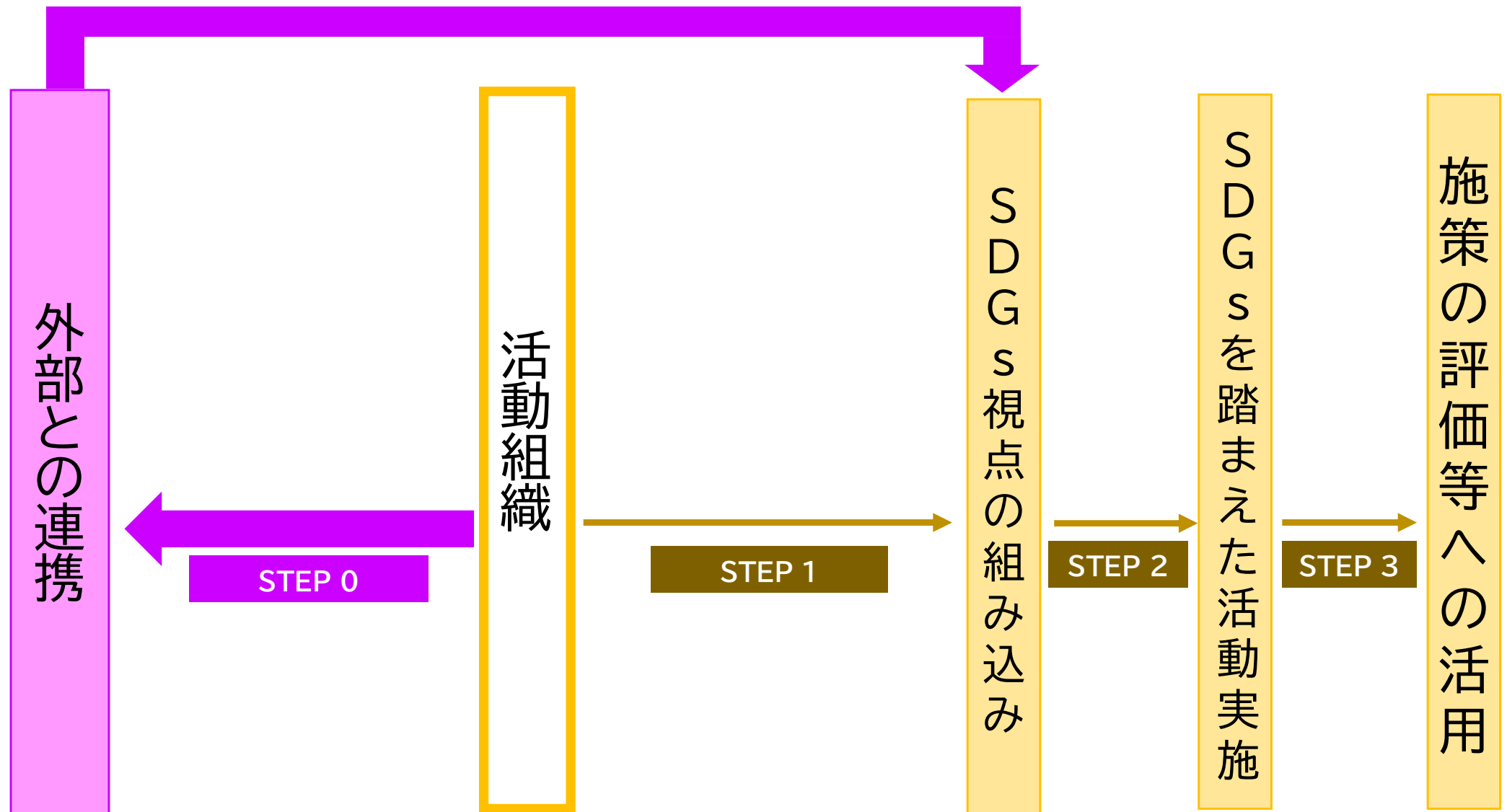
13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。

- ☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる《増進活動》※
- ☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間での情報交換会の実施等により、連携を図っている《啓発・普及活動》
- ☐ 下記の活動に取り組んでいる

活動内容:

2. 令和4年度の検討内容について

(1) SDGsの理解醸成を通じた取組及び活動組織の活性化のプロセスの整理



(2) 令和4年度調査の概要

○これまでの検討結果を踏まえ、以下の調査により、SDGsアイディアシートの活用と普及方法を検討する。

- 1) 先進事例調査（静岡県）
- 2) モデル地区調査（新潟県新潟市、長野県伊那市）
- 3) SDGsアイディアシート試行調査（活用方法に対する意見の収集）

1) 先進事例調査（静岡県）

静岡県では、農村と企業等の協働活動を推進するため、2006年から「一社一村しずおか運動」として多面的機能支払の活動組織を含む36地域41社（大学・団体）を認定。この活動を推進している県、活動組織、企業等を対象としてSDGsアイディアシートの有効性と課題について調査を行い、今後の普及方法等を検討。

2) モデル地区調査（新潟県新潟市、長野県伊那市）

地方自治体、活動組織等を対象に、SDGsアイディアシートを活用した普及・連携促進に関する有効性、ニーズ等について把握。

- ① 新潟市：平地農業地域に位置し、地域住民の参加による保全活動が当面見通せる地域
- ② 伊那市：中山間地域に位置し、高齢化等により草刈等の作業が負担となってきた地域

3) SDGsアイディアシート試行調査

- ①教育機関と連携している活動組織等から、SDGsアイディアシートの活用方法等に対する意見を収集。
- ②活動組織リーダー及び地方自治体担当者から、活動量評価及びSDGsアイディアシートの活用方法等に対する意見を収集。

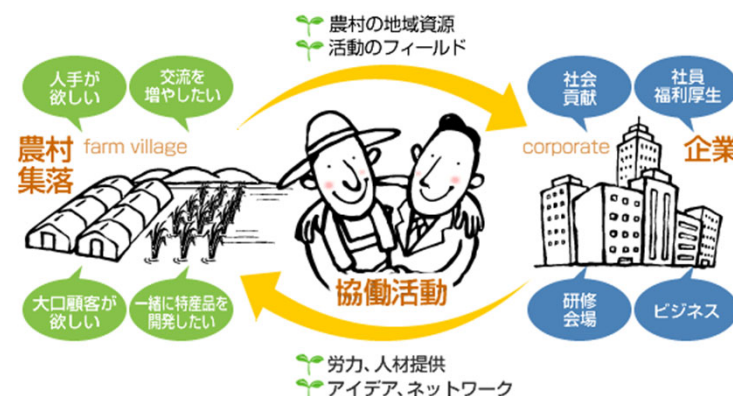
3. 令和4年度調査結果

(1) 先進事例調査（静岡県）：「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化への取組におけるSDGsの活用

- 静岡県における活動組織と企業等とのマッチング支援体制は、「一社一村しずおか運動」と合わせて、しずおか農山村サポーター「むらサポ」、「むらづくりワンストップ窓口」等から構成されており、連携へのステップを進めやすい仕組みとなっている。

「一社一村しずおか運動」

- 企業が果たす社会的責任(CSR)として環境改善や地域社会への貢献に関心の高い企業が増えており、静岡県では2006年より、農村と企業が持つ、それぞれの資源、人材、ネットワーク等を生かし、双方にメリットのある協働活動の実施を目指す「一社一村しずおか運動」を実施している。
- 2022年度現在、県内36の地域で41の企業が45の認定を受けて活動を行っている。この36地域のうち、多面的機能支払交付金に取り組んでいる地域は21地域となっている。
- 県の役割は、農山村、企業等の情報収集・発信、連携のコーディネート、活動の認定及び認定事例のPR等である。



しずおか農山村サポーター 「むらサポ」

- 農山村をみんなで守り、盛り上げていこうという静岡県民を主体としたサポーターズクラブ。登録した個人、法人には、メールマガジンやFacebook等により、各地域の紹介やイベント等のお知らせ、協働活動の事例等が配信される。
- 「むらサポ」をきっかけとして、地域活動への参加やマルシェ等の開催、企業の持つ技術の提供、「一社一村しずおか運動」への取組等へ発展してきている。

むらづくりワンストップ窓口

- 地域づくりに関する各種相談の窓口として、地域づくりアドバイザーや環境学習コーディネーターが対応する拠点を県内に4箇所設置している。

情報発信

旬な農山村の情報を無料で
「むらサポ」HPやFacebookで広報

連携支援

外部人材の連携支援、
各種ノウハウ等を
持った人材を紹介

各種相談

農山村のよろず相談
の受付

マッチング支援プラットフォーム「むらマッチ」(構築中)

- 農村と企業・大学のマッチングを支援するプラットフォームとして、両者のニーズ、得意分野等を掲載するサイト。
- 令和5年度の公開に向けて、システム構築中。
- 農村(活動組織)、企業・大学とも、SDGsというキーワードで整理して登録することを検討しており、活動組織の情報には多面版SDGsローカル指標を活用予定。

一社一村しずおか運動取組事例①：都田地区（静岡県浜松市）

（NEXCO中日本×水と緑北都の会・都田里山の会）

みかんの収穫などの農作業支援や遊休農地の草刈り、野菜の作付や景観形成活動の実施などを通じた交流により、良好な農村環境の保全と地域の活性化を目指す。

取組経緯

- NEXCO中日本が社内でCSRの具体化を検討している時に「一社一村しずおか運動」を知り、高速道路の建設時からつながりのあった都田地区等、県内3箇所では2011年に取組を開始。
- 都田地区では、2つの活動組織（水と緑北都の会・都田里山の会）と連携して12年間活動を継続中。

活動内容

- 草刈り、遊休農地を活用した野菜の栽培等。
- 景観形成活動として、芝桜や彼岸花を植栽。



写真：一社一村しずおか運動HP
<https://www.pref.shizuoka.jp/sangyou/sa-460/issyaissan/action/no35-4.html>

【活動組織概要】

①水と緑北都の会（活動開始 2007年）

- ・ 認定農用地面積 5.2ha（田3.6ha、畑1.6ha）
- ・ 取組内容 農地維持、資源向上（共同・長寿命化）
- ・ 主な構成員 農業者144名、自治会4、学校PTA2、漁協1

②都田里山の会（活動開始 2010年）

- ・ 認定農用地面積 7.8ha（畑7.8ha）
- ・ 取組内容 農地維持、資源向上（共同・長寿命化）
- ・ 主な構成員 農業者170名、自治会3、学校PTA2等

取組による効果

《企業》

- 地域の人たちと交流する機会となっている。
- 活動参加者のアンケート調査では、9割以上が参加してよかった、どちらかと言えばよかったと回答。
- 地域と一体となった取組として継続していきたい。

《活動組織》

- 遊休農地の発生防止が図られ、美しい景観が維持されている。
- 2つの活動組織の連携につながった。
- 景観形成活動で植栽された彼岸花は、天浜線ギャラリー（天竜浜名湖鉄道の写真投稿サイト）の題材として投稿されるなど、観光資源となっている。

《波及効果》

- NEXCO中日本は、「株式会社鈴生」との共同出資により、裏作や耕作放棄地の活用してレタス、枝豆などの生産・販売を行う農地所有適格法人「中日本ファームすずなり株式会社」を2018年度に設立。都田地区内の農地も借地により耕作している。

一社一村しずおか運動取組事例①：都田地区（静岡県浜松市） （NEXCO中日本×水と緑北都の会・都田里山の会）

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

企業

- この取組がSDGsへの貢献につながっていることを認識した。
- SDGsアイデアシートは地域をよく知るきっかけとなる。

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

企業

- （活動組織、企業等のそれぞれのニーズや協働による効果等を明らかにし、相互の理解を促進するのに役立つという観点から）SDGsアイデアシートは、農村地域と企業とのコミュニケーションツールとなるのではないか。

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

企業

- SDGsアイデアシート等により取組状況等が見える化されると、地域により入りやすくなり、別の活動やビジネスのヒントになる可能性がある。

【参考1】企業との協働活動をきっかけとした新たな取組

組織

- 一社一村しずおか運動への取組が2つの活動組織の連携につながった。

一社一村しずおか運動取組事例②：上倉沢地区（静岡県菊川市）

鈴与^{すずよ}(株)・グローバルデザインスクール(株) × 上倉沢^{せんがまち}千框保存会

棚田の保全、酒米栽培等を通じた関係人口の創出、産学連携の実施による地域人材の育成

取組経緯

- 物流会社である鈴与(株)が、地域への社会貢献や社内の活性化を目的に、農山村での活動を検討していたところ、「グローバルデザインスクール(株)（以下、GDSという。）」の仲介により「むらサポ」に登録。
- 2022年に一社一村しずおか運動の認定を受け、活動を開始。

【活動組織概要】

上倉沢千框保存会（活動開始 2007年）

- ・ 認定農用地面積 39.3ha（田3.1ha、畑36.2ha）
 - ・ 取組内容 農地維持、資源向上（共同・長寿命化）
 - ・ 主な構成員 農業者13名、NPO法人1等
- ※活動組織の構成員であるNPO法人が連携の主体

活動内容①棚田の保全活動等

- 棚田での酒米の栽培、「菊川ジュニアビレッジ」の応援活動（作業支援やハーブの購入等）を実施。
- 収穫した酒米は他地区で栽培している酒米と合わせて県内の酒造場で日本酒を製造し、社内での利活用を図る予定。



写真:「むらさぽ」HP
<https://www.shizuoka-murasapo.net/senngamachi-tanada-taue/>

活動内容②ジュニアビレッジとの協働

- GDSは、農業を通じて不確実な未来を生き抜く人材育成プログラムとして、小中学生向け次世代イノベーター育成コミュニティスクール「ジュニアビレッジ」等を企画運営。ジュニアビレッジでは応援団の和を広げるために企業との連携を図っており、GDSは**地域と企業の連携の中間支援**を行っている。



- 2016年に発足した菊川ジュニアビレッジは、菊川茶の魅力を伝え、菊川市の地域活性化につなげるために小6から中2までの子どもたちが集まり、1年間を通して生産から会社経営を行っている。上倉沢地区でハーブを栽培し「本気のハーブティ」と名付けて商品化したハーブティをネット等で販売している。



写真上: 静岡県人会HP
<https://shizuokakenjinkai.jp/spcontents/15939/>

写真下: こども商店HP ジュニアビレッジプログラムのオンラインショップ
<https://jvglocal.thebase.in/?fbclid=IwAR3u3XGee22KIGUZ9woz3CnIQIIKOr83DmYJrZGyr5Mq16seRjuN141bZd8>

取組による効果

《企業》

- 地域の人たちとふれあう機会ができ、社員とその家族が職場を離れて一緒に活動できる。
- 地域や環境保全について考える機会や小中学生、大学生等多様な主体との交流が図られている。

《組織》

- 棚田のことを知ってもらう機会となる。
- 遊休農地の利活用が図られる。
- 酒米づくりなど、新たな活動を行うきっかけとなっている。

一社一村しずおか運動取組事例②：上倉沢地区（静岡県菊川市）

鈴与（株）・グローバルデザインスクール（株）×上倉沢千框保存会

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

中間支援組織

- SDGsへの貢献を意識している企業は多く、貢献したい目標を設定している企業もあるため、農村地域に興味のある企業と具体的な話をしやすくなる。
- 企業が協働活動について広報する場合、SDGsアイディアシートの情報は、SDGsの目標に貢献していることの尺度となるので、企業としても公開しやすくなるだろう。
- 地域課題を企業も一緒に考えるような形の協働活動は、参加する社員がSDGsを身近に感じる機会となり、人材育成にもつながると考えている企業が増えてきている。
- 「地域側のSDGsの課題を一緒に解決してくれるパートナー企業を募集」という呼び込み方が明確でよい。

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

中間支援組織

- 企業が参加したことによる効果や地域からの要望を活動組織から企業へフィードバックできる資料になることが望ましい。地域側の評価や期待値があると、企業側としても活動を継続するための材料となる。

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

中間支援組織

- 地域側の意向が見えてくると、次の協業につながり、企業の活動を深化させる補助ツールとなる。

【参考1】企業との協働活動をきっかけとした新たな取組

組織

- 酒米づくりなど、新たな活動を行うきっかけとなっている。

(1) 先進事例調査（静岡県）まとめ : 「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化への取組におけるSDGsの活用 (SDGsアイディアシート等によるSDGsへの取組状況の見える化の有効性の検討)

(1) 参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）

- 企業等のSDGsへの貢献や地域協働活動への関心は高まっており、活動組織によるSDGsへの取組状況の見える化は、参加企業等の掘り起こし（マッチング支援）に有効
- SDGsアイディアシート等の情報を企業等へ届ける仕組みの構築がポイントであり、全国の自治体や推進協議会、中間支援組織等による連携の支援体制や支援方法を把握し、その仕組みに溶け込ませることが重要

(2) 活動組織と企業等のコミュニケーションの促進

- SDGsアイディアシートにより活動組織と企業等のコミュニケーションが促進され、企業等のモチベーションの向上、協働の取組の継続・発展に有効
- 協働活動に取り組む活動組織、企業等、それぞれのニーズや協働による効果、要望等を含めた相互のフィードバックを促進するツールとしての役割が期待

(3) 新たな取組や新事業創出のきっかけづくり

- SDGsへの貢献という視点を通して地域の課題や目標を活動組織と企業等が共有することにより、課題解決に向けた新たな取組や新事業創出のアイディアが生まれるきっかけとなる可能性
- 行政や中間支援組織等によるコミュニケーションの促進や各種関連支援策に関する情報提供等、新たな取組や連携等への発展を支援することが重要

【参考2】 中間支援組織(事例②)から見た「農的関係人口」の創出・拡大や関係の深化のポイント

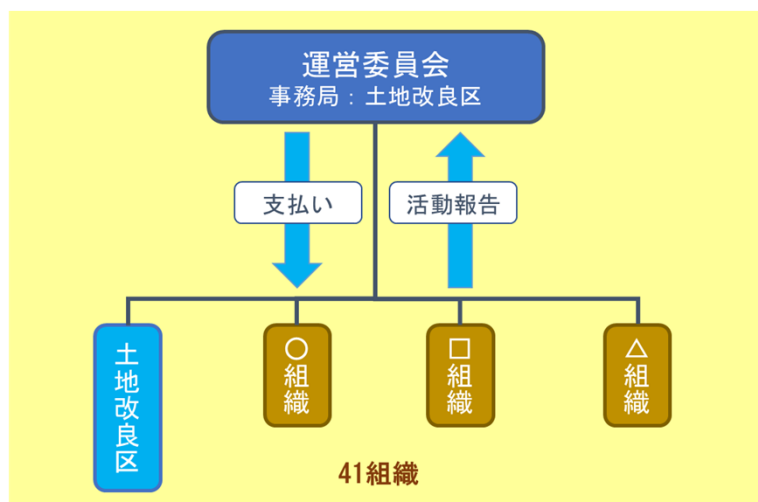
- その地域でどのような活動が可能か、受け入れ可能な人数や時期、トイレ等の有無といった基本的な情報があれば、企業側から問い合わせをするハードルが下がる。
- 慣れていない企業が参加するには、ある程度受入体制ができている地域がどこにあるかという情報が重要。
- 地域側、企業側にリーダーシップを持って推進できる人がいれば2者で連携が進むが、余裕があるところは少ないため、中間支援組織による支援が求められている。
- 地域、企業がお互いに評価して次の年の計画へつなげていくことにより、活動がマンネリ化しにくくなり、発展性がある。中間支援組織がフィードバックや次年度の計画策定の支援を行うことも重要。

(2) モデル地区調査 ① 新津郷広域協定（新潟県新潟市）

【新津郷広域協定】新潟市の大規模な土地改良区を母体とする広域協定であり、土地改良区が事務局を担い、実施体制が整っている。傘下の活動組織の活性化・連携支援により、地域全体の多面的機能の維持発揮を図っている。

【傘下の活動組織】現在のところ、活動参加者数の確保に支障は生じていないが、今後の高齢化・人口減少に備え、地域住民の参加を拡大にするための方策が求められている。

新津郷広域協定 組織概要



運営委員会

- ・ 申請書・実績報告書等の関係書類作成
- ・ 交付金の一括管理
- ・ 各活動組織には配分額を提示（面積×単価）
- ・ 活動報告を受けて活動組織へ活動費等を支払

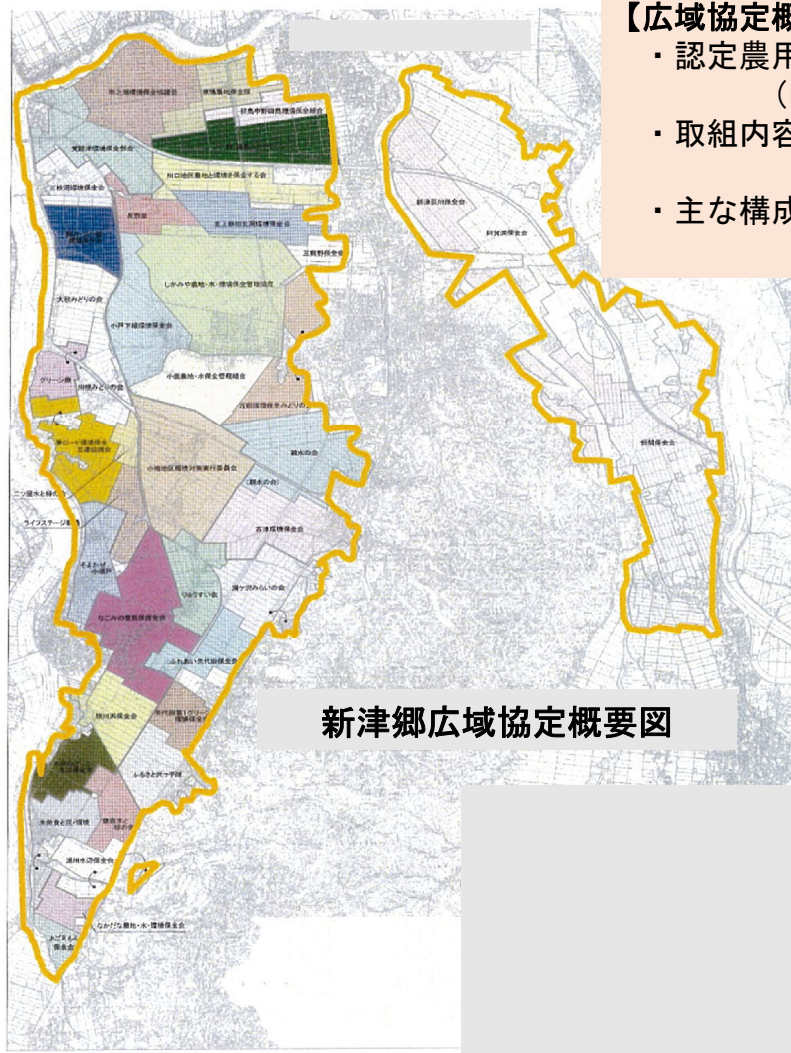
土地改良区

事務局 4 名、技術職 3 名で対応

- ・ 補修工事等の実施

活動組織

- ・ 従来通りそれぞれ独自の活動を実施
- ・ 事務局（土地改良区）へ作業日報等で報告



【広域協定概要】新津郷広域協定

- ・ 認定農用地面積 3,836.9ha
(田3,657.9ha、畑179.0ha)
- ・ 取組内容 農地維持、資源向上
(共同・長寿命化)
- ・ 主な構成員 農家組合、自治会、
学校PTA等



調査 1 : 活動組織への調査

- 3つの活動組織役員 7名にSDGsアイディアシートを記入してもらい、感想・意見を聞き取り。
- この意見を踏まえ、広域協定事務局と活動組織が中心となり組織構成員向けのPR資料を試作。

活動組織役員のSDGsアイディアシートに対する感想・意見

- ・ 共同活動はSDGsと多くの点で重なっていることがわかった。
- ・ これまで活動してきたことが、SDGs目標達成に貢献していることがわかり、今後も継続していきたい。
- ・ 共同活動への参加意義を伝えるうえでヒントとなった。
 - ①若い世代には、多面的機能というよりSDGsをPRした方が関心を持ってもらえそう。
 - ②子供たちは、学校でSDGsを学習しているので、身近なところにあるSDGsの取組を伝え、小中学校と連携したい。
- ・ 共同活動は、これまでの農業者を応援するために行うとの認識から、SDGsに貢献することが理解されれば、本来地域全体で取り組むべきとの認識へ変わっていくのではないかな。
- ・ SDGsアイディアシートは、自分たちの活動が該当しない項目が含まれていたり、文字が多いため、構成員や地域住民への普及にはそのまま使用し難く、より分かりやすい説明が必要。



対応

- 活動組織が実際に行っている活動（写真）とSDGs目標を結び付けたPR資料を作成。

調査 1：活動組織への調査

SDGs アイディアシート (活動組織の役員・事務局向け)

多面的機能支払版 SDGs アイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※のある項目は、実績報告を参照してチェック可能な内容

①実施している取り組みにチェックをつけてください

I 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)	
【目標6】地域における水質を保全する。	6.3 水質保全、ゴミ等の投棄防止、水の循環利用を増やすなどの取組によって、水質を改善する。 ☐ 畑からの土砂流出対策に取り組んでいる《水質保全》※ ☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、循環かんがいの実施等に取り組んでいる《水質保全》※ ☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃に取り組んでいる《景観形成・生活環境保全》※ ☐ 本文交付金と合わせて環境保全型農業直接支払交付金に取り組んでいる ☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付けたら、活動内容欄に具体的な活動内容を記載してください) 活動内容:
【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する。	13.1 災害に対する強靱性、対応力を強化する。 ☐ 排水路等の草刈りや泥上げ、点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》 ☐ 異常気象後の見回りや応急措置により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる《農地維持》 ☐ 水田の貯留機能向上活動に取り組んでいる《水田貯留機能増進》※ ☐ 地域住民による直営施工に取り組んでいる《増進活動》※ ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容: 13.3 災害時における応急体制の整備、水田やため池の雨水貯留機能の活用などによる防災・減災のための啓発・普及を図る。 ☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる《増進活動》※ ☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進していくために下流域と上流域との間の情報交流、連携を図っている《啓発・普及活動》 ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
【目標14】海洋・海洋資源を保全する。	14.1 海洋ゴミや富栄養化などによる海洋の汚染を防ぐ。 ☐ 水質保全活動により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる《水質保全》※ ☐ 施設等の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや汚染の減少に取り組んでいる《水質保全》※ ☐ 水田貯留機能の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
【目標15】地域における生物多様性を保全する。	15.5 生物多様性保全のための取組を行う。 ☐ 生態系保全活動に取り組んでいる《生態系保全》※ ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容: 15.8 外来種の侵入を防止するとともに、外来種を駆除する取組を行う。 ☐ 外来種の駆除に取り組んでいる《生態系保全》※ ☐ 生物の生息状況の把握により、外来種の侵入を防止している《生態系保全》 ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
II 社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)	
【目標3】やすらぎや福祉の機会を提供する。	3.4 地域資源の有するやすらぎや教育の場としての活用を図る。 ☐ 地域資源の有するやすらぎや教育機能を活かす活動に取り組んでいる《増進活動》※ ☐ 様々な取組や交流活動により、老若男女、地域内外を問わず、多様な主体の活躍の場を創出している《農村環境保全活動》 ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
【目標4】地域内外の人に質の高い教育、生涯学習の機会を提供する。	4.7 持続可能な地域づくりに必要な知識や技術について、地域住民等の理解を深めるための啓発・普及を図る。 ☐ 農村環境保全活動の実践活動や啓発・普及活動を通じて、持続可能な地域づくりへの理解を深める取組を行っている《農村環境保全活動》 ☐ 学校教育等との連携により、地域の農業や環境保全に関する学習の機会を提供している《農村環境保全活動》 ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:
【目標5】女性の参画により地域や活動組織の取り組みの可能性を広げる。	5.5 活動組織の役員や活動に参加する女性の割合を増加させる。 ☐ 活動組織の計画策定や運営等に女性が参画している(活動組織には女性役員がいる)※ ☐ 女性が中心となって企画している活動がある ☐ 活動内容や時間帯等、女性が活動に参加しやすい工夫をしている ☐ 下記の活動に取り組んでいる 活動内容:

活動組織がチェックを入れた活動内容と該当するSDGs目標を抽出

一般向け説明資料 (活動組織の構成員・地域住民向け)

身近なところにあるSDGsに関する活動

ご存じですか？地域で行う共同活動は、持続可能な社会をつくり継承するという点で、SDGsの目標達成に貢献しています！ (活動組織A)



経済(構造改革の後押し等、地域農業への貢献)

【目標2】持続可能な農業生産を支えるため、水路等の適切な保全管理を行っています。

【目標9】資源向上支払(共同・長寿命化)活動は災害に強いインフラづくりにつながります。



水路の草刈り



水路の泥上げ



水路の軽微な補修等



資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】施設等の定期的な巡回点検・清掃は水質保全につながっています。

【目標13】気候変動及びその影響を緩和するための活動を実施しています。



施設等の定期的な巡回点検・清掃



異常気象後の対応



社会(農村の地域コミュニティの維持・強化への貢献)

【目標11】 【目標16】

女性会や子供会など多様な主体が活動組織の構成員として参画しています。



施設等の定期的な巡回点検・清掃



植栽等の景観形成活動



年度活動計画の策定

調査２：広域協定事務局への調査

- 広域協定事務局にSDGsアイディアシートを見せ、感想・意見を聞取り。
- SDGs目標と共同活動とのつながりをテーマとしたカレンダーを試作。

新津郷広域協定事務局（土地改良区）のSDGsアイディアシートに関する感想・意見

- ・ 共同活動が具体的にSDGs目標のどれに貢献するかがわかり、活動組織の気づきや地域住民へのPRに有効。
- ・ SDGsアイディアシートにおける自分たちの活動内容は、農家等にすんなり入ると思うが、それらをSDGsと結び付けて理解するには工夫が必要。
- ・ 広報等にSDGs目標と共同活動との関係を盛り込んで普及したい。
- ・ 共同活動の普及のために、各活動組織の作業内容や参加者を示す写真を編集してカレンダーを作成し、活動組織に配布して集会所等に掲示してもらっている。
- ・ 今後は、SDGs目標との関係を盛り込んだカレンダーを作成していきたい。



対応

- SDGs目標ロゴ、目標達成に貢献する活動の写真、それらを結び付けるスローガンを盛り込んだカレンダーを試作。

調査2：広域協定事務局への調査

【従来のカレンダー】



ふくえん保全会
なかたな農地・水・環境保全会
湯川水辺保全会
水田食と花・環境
小南みどり水の保全会
鎌倉水と緑の会

次世代に残そう 美しい農村環境

MEMO

2023 令和5年

1

January

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
1 祭 正月	2 祭 正月	3	4	5	6
8 祭 正月	9 祭 正月				
15	16				
22	23				
29	30				

2023 日月火水木金土
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2023 日月火水木金土
2 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28

 **新津郷広域協定**
〒956-0031 新潟市秋葉区 新津4540番地



ふるさと沢っ子隊
矢代田原・グリーン環境保全会
ふれあい矢代田保全会
リョウスイ会
なこみの里新保全会
そよかせ小園戸

農村集落の活性化を目指して

MEMO

2023 令和5年

2

February

SUN	MON	TUE	WED	THU	FRI
29	30	31	1	2	3
5	6	7	8	9	10
12	13	14	15	16	17
19	20	21	22	23 大晦日	24
26	27	28	1	2	3

2023 日月火水木金土
1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

2023 日月火水木金土
3 1 2 3 4 5 6 7 8 9 10 11 12 13 14 15 16 17 18 19 20 21 22 23 24 25 26 27 28 29 30 31

 **新津郷広域協定** (事務局：新津郷土地改良区)
〒956-0031 新潟市秋葉区新津4540番地 TEL:0250-22-2411 代 FAX:0250-22-042

【SDGs目標を用いたカレンダー（試作）】



1 次世代に残そう
美しい農村環境！

6 安全な水とトイレ
を世界中に

Sun Mon Tue

1	2	3
8	9	10
15	16	17
22	23	24
29	30	31



2 草刈り作業中！
みんなで農地を守っていこう

2 食糧を
ゼロに

Sun Mon Tue Wed Thu Fri Sat

			1	2	3	4
5	6	7	8	9	10	11
12	13	14	15	16	17	18
19	20	21	22	23	24	25
26	27	28				

(2) モデル地区調査 ② 長野県伊那市

- SDGsアイディアシートを通じた企業呼び込みについて、地域の金融機関2社から意見を聞取り。
- 企業向けPR資料を作成。企業1社と現地調査、聞取りを実施。

《SDGsアイディアシートに対する意見》

【金融機関】

- ・企業のSDGsへの貢献は、融資や取引先との契約条件となりつつあり、企業はSDGsに自ら関わる必要がある状況。
- ・しかしながら、企業は農業の多面的機能や地域の共同活動について知らないため、連携構築にはまず農業の多面的機能や共同活動とSDGsとの関係をわかりやすく説明することが第一歩となるのではないか。

《企業向けPR資料に対する意見》

【企業】

- ・SDGsに貢献しなければと思いつつも、何をしたらよいかわからなかったが、PR資料を見て、活動組織との連携は地域と企業の双方にメリットがあり、SDGsにも貢献すると感じた。

【市】

- ・ワーケーション推進の取組等と連携し、企業向けPR資料の改良や活用方法を検討していきたい。

企業向けPR資料
(市が作成)

関心を示す企業の発掘

企業の現地調査

活動組織とのマッチング
の可能性を検討へ

企業による現地調査の様子



活動組織の環境保全施設



活動組織の水田



古民家を改装した宿泊施設

(2) モデル地区調査 ② 長野県伊那市

社会貢献、SDGs にご関心のある企業の皆様、農業・農村での協働活動を通じて地域への貢献を考えてみませんか



■農業・農村の多面的機能を知っていますか

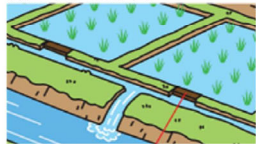
農業・農村は、私たちが生きていくのに必要な米や野菜などを生産する役割を果たしています。しかし、それだけではありません。農村で農業が継続して行われることにより、私たちの生活に色々な『めぐみ』をもたらしています。この『めぐみ』を「農業・農村の有する多面的機能」と呼んでいます。

■農業・農村の多面的機能ってどんな機能ですか

例えば、水田は雨水を一時的に貯留し、洪水や土砂崩れを防いだり、多様な生きものを育んだり、また、美しい農村の風景は、私たちの心を和ませてくれるなどの役割を果たしており、そのめぐみは、地域住民はもちろん都市住民を含めて国民全体に及んでいます。

田の水を貯める機能

田は、大雨の際、雨水を一時的に貯め、時間をかけてゆっくりと下流に流すことができます。



排水口に堰板を使って水の深さの調節ができます。

川の流れの安定、地下水かん養

田畑に降った雨水は、水路を通じて、また地下水としてゆっくりと河川に還元されます。



土砂崩れや水害の防止

長い間耕作が行われないと、雨水の貯留機能が弱まり、土砂くずれや水害が起きやすくなります。



教育、体験、福祉、交流の場

田畑を活用した情操教育、農業体験、福祉との連携、都市と農村との交流を行うことができます。



生物多様性の維持

田のなかにはプランクトンやそれを捕食する様々な生き物が生息しています。毎年、春の田植えの頃にはカエル、夏にはホタル、秋の稲刈り頃にはトンボが現れます。



美しい景観、文化の伝承

農村の美しい景観は農業の営みによって形成され、伝統行事や祭りの多くは、農業に由来し引き継がれています。



「はざがけ」の田んぼと茅葺きの民家（京都府美山町）

図1 農業・農村の有する多面的機能の例

■農業・農村の多面的機能はどのように守られているのでしょうか

- 多面的機能は、農村で農業が継続して行われることにより保全・発揮されています。具体的には、以下のような地域の共同活動によって支えられています。
- 農業には水が必要です。また、大雨の時には農地からの排水が必要です。こうした用水・排水は、農村に張り巡らされた水路を通じて取り込んだり吐き出したりしています。
- こうした水路は、雑草が生えたり土砂が溜まったりすると流れが悪くなり農業生産に支障がでるだけでなく、例えば、排水が悪くなると水があふれて周辺の住宅や施設にも悪影響が出かねないため、農業者をはじめ地域の人々の総出で草刈や土砂さらいをすることにより、守られています。



水路、農地周辺の草刈

水路の土砂さらい

農道の補修

■多面的機能の保全活動は、SDGs 目標達成にも貢献しています

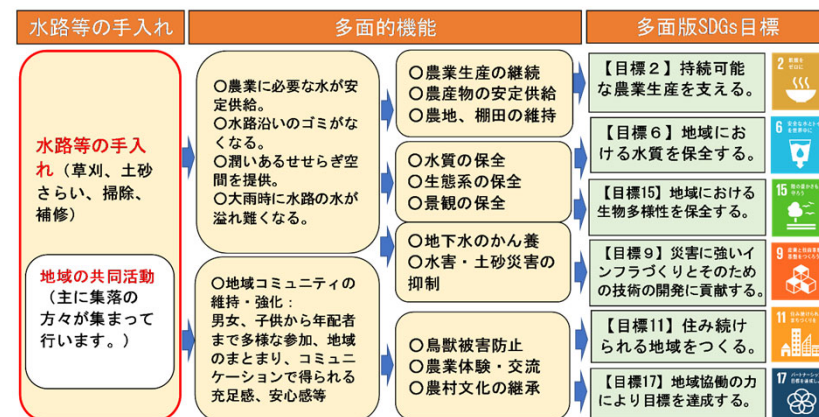


図2 多面的機能の保全活動とSDGs 目標との関係(例)

■多面的機能を守っている農村で高齢化と人口減少が進んでいます

これまで、草刈や土砂さらい等は地域の方々のみで行ってきましたが、将来を考えた場合、地域外の人にも共同活動に参加してもらわないと、多面的機能を支える水路や農地の保全、地域のコミュニティ活動が十分にできなくなってしまう。

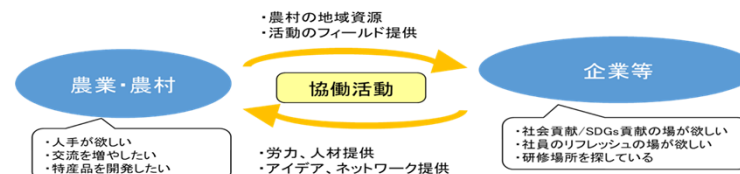


図3 外部の方々の参加によって期待される協働活動のイメージ

地域の方々と協働活動は、草刈や土砂さらいなどの農作業の手伝いから始まり、収穫の喜びを分かち合うことができ、地域コミュニティの活性化や、地域資源を活用したビジネスチャンスに結びつく可能性もあり、企業の皆さんにとって地域貢献、SDGs 貢献につながり、また、従業員の皆さんにとってリフレッシュの場になるなど多くのメリットがあります。

■農村との連携・地域への貢献にご関心をお持ちの皆様、是非一度、ご連絡、ご相談ください。連携・貢献に向けた地域とのつながりをサポートします。

問合せ先：〇〇(団体名) 〇〇(担当者) TEL: 〇〇

資料：農林水産省ホームページ等から編集(作成：一般財団法人 日本水士総合研究所)

(3) SDGsアイディアシート試行調査

1) 教育機関等との連携に関する調査

○活動組織を対象としたアンケート調査において、教育機関等との連携状況を把握するとともに、SDGsアイディアシートの記入を依頼し、SDGsへの取組の普及のあり方について分析。

(1) アンケート調査対象

対象組織 : 令和4年度に多面的機能支払に取り組んでいる活動組織から、都道府県別の組織数に応じて612組織を配分し、教育機関と連携している組織が5割程度となるように選定した組織

(2) アンケート調査期間

令和4年9月9日から10月7日(約4週間)

調査票を推進組織経由で配布回収(配布数612組織、回収数562組織 回収率92%)

アンケート回答組織のうち、SDGsアイディアシートに記入後、設問に回答した組織は347組織

(3) 調査実施主体

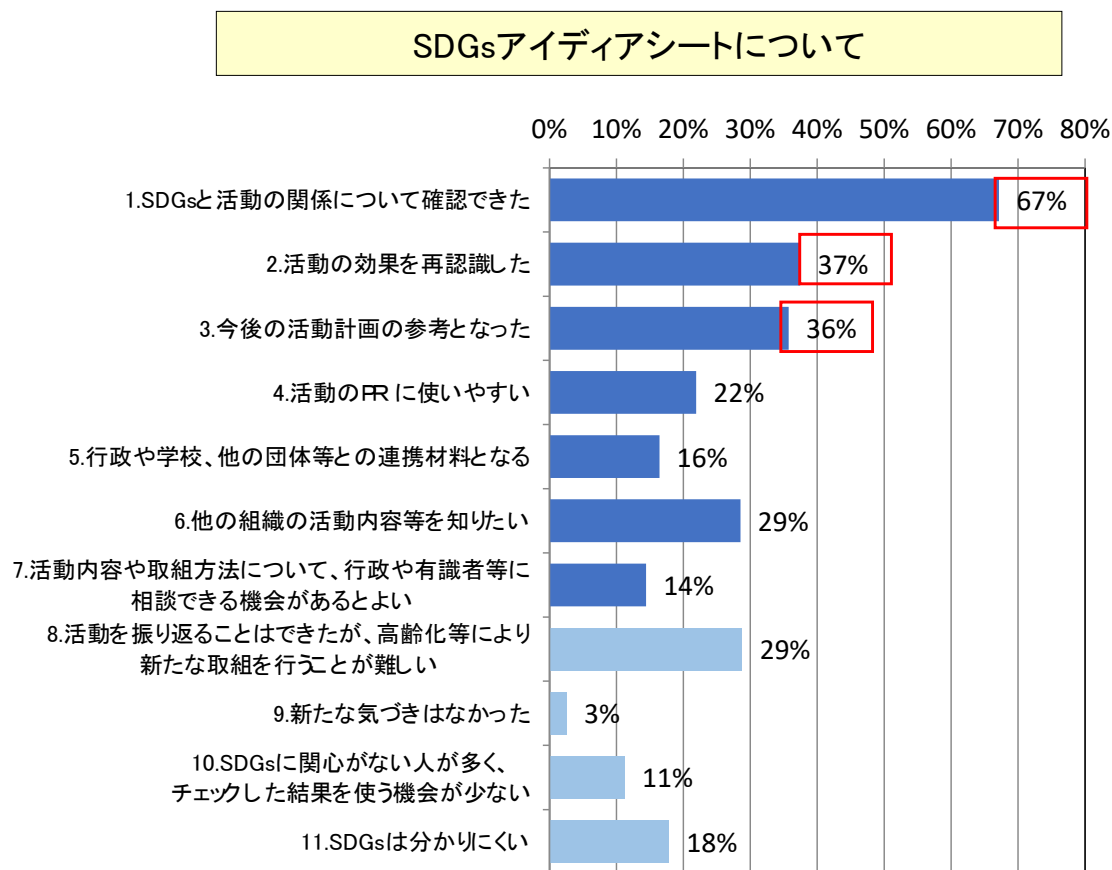
全国水土里ネットが「多面的機能支払交付金農業関係団体や教育機関等との連携に関するアンケート調査」として実施

教育機関等との連携状況別組織数

教育機関と連携しているまたは、連携する予定がある	187組織	54%
連携してみたいが、具体化していない	46組織	13%
連携する意向はない	110組織	32%
無回答	4組織	1%
計	347組織	100%

①SDGs アイディアシートについて

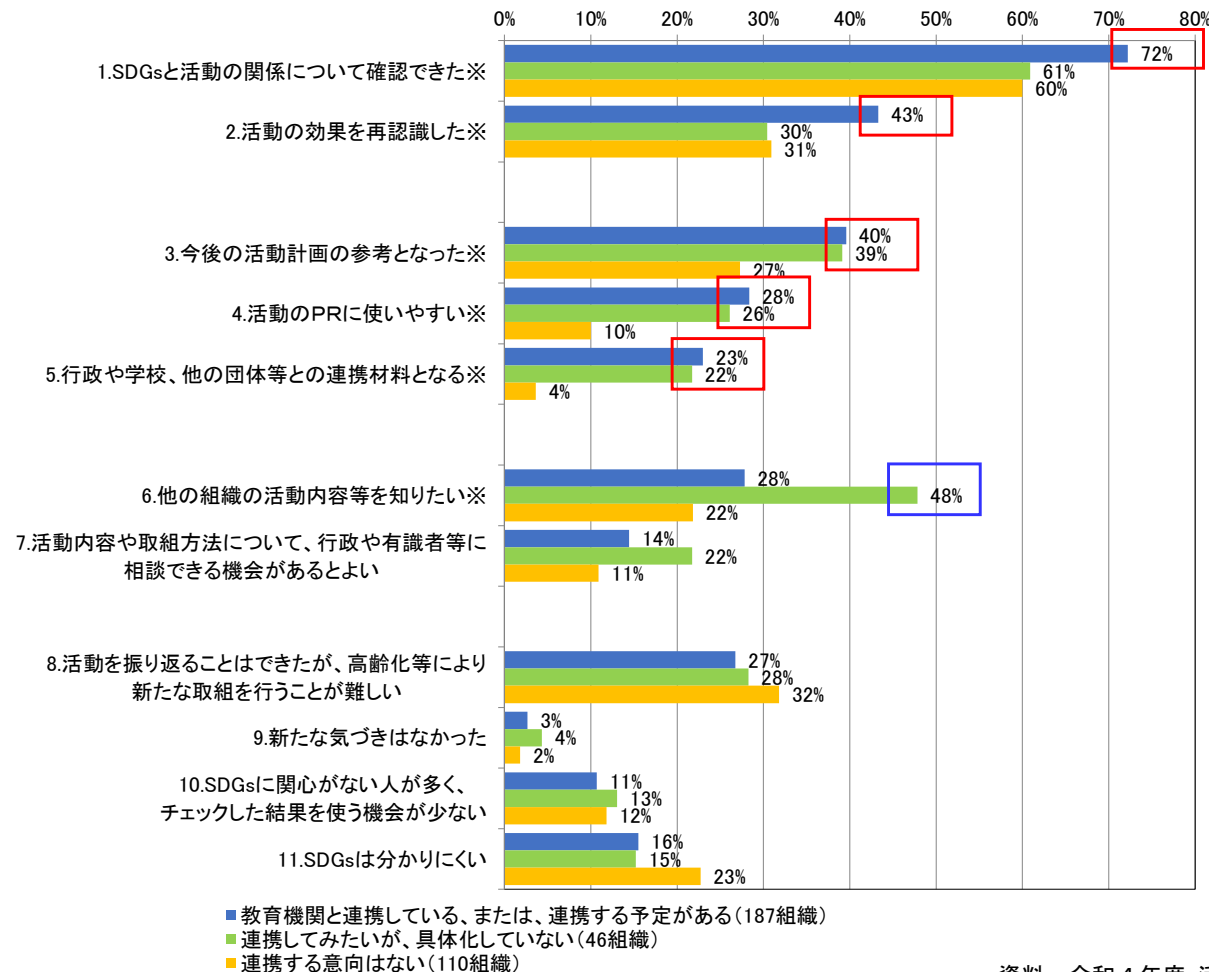
- 4 組織14名を対象とした昨年度の試行調査では、SDGsが地域に浸透しておらず、SDGsアイディアシートを活用していくことは難しいという意見が半数以上を占めていたが、今回、対象組織を拡大して調査を行ったところ、「SDGsと活動の関係について確認できた」と回答した組織が最も多く67%を占める結果となった。次いで「活動の効果を再認識した」37%、「今後の活動の参考となった」36%となっている。
- 一方で、「活動を振り返ることはできたが、高齢化等により新たな取組を行うことが難しい」、「SDGsに関心のない人が多くチェックした結果を使う機会が少ない」と回答した組織も見られる。



②SDGsの取組と教育機関との連携について

- 各活動組織の教育機関との連携状況別に見ると、教育機関と連携しているまたは連携する予定がある組織（連携組織）は、「SDGsと活動の関係について確認できた」、「活動の効果を再認識した」と回答した割合が連携していない組織より高い。
- 連携組織と、連携してみたいが具体化していない組織（連携意向のある組織）は、「今後の活動の参考となった」、「活動のPRに使いやすい」、「行政や他の団体等との連携材料となる」と回答した割合が高く、SDGsの取組を教育機関との連携と合わせて行っていく方向性があることが示されている。
- 連携意向のある組織は、「他の組織の活動内容等を知りたい」と回答した組織が48%を占めており、活動事例紹介や研修等がSDGsの普及に有効であることが示されている。

SDGsアイディアシートについて(教育機関等との連携状況別)



注) 設問に※を付した設問は有意差あり

資料：令和4年度 活動組織アンケート

(3) SDGsアイディアシート試行調査

2) 農村振興リーダー研修における調査

○SDGsに関する研修受講者を対象としてSDGsアイディアシートを配布することにより、SDGsへの取組の普及のあり方について分析。

(1) アンケート調査対象

対象者 : 令和4年度に農村振興リーダー研修（全国農業振興技術連盟）※を受講した活動組織代表者等

(2) アンケート方法

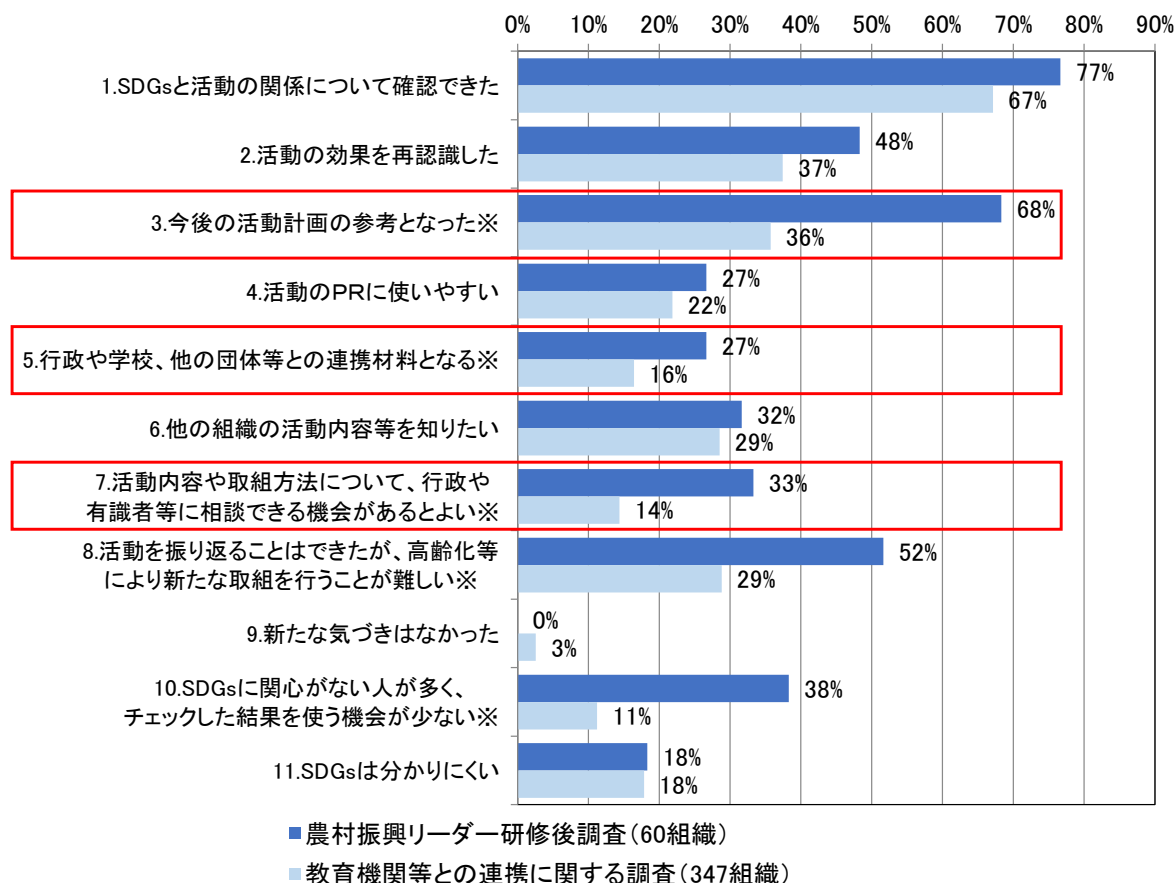
農村振興リーダー研修受講終了後にSDGsアイディアシート及びアンケート票を配布し、後日郵送により回収
アンケート配布組織数146組織、回答組織数60組織（回収率41%）

※農村振興リーダー研修：平成19年度に「農地・水・環境保全向上対策」が制度化されたことを受け、活動組織や地域協議会の代表者、行政担当者等を対象に、毎年地域ブロック単位で開催されている全国農村振興技術連盟主催の研修会。
令和4年度はSDGsをテーマとした研修を実施。

①SDGsへの取組の普及について

- 研修受講後の組織は、受講していない組織と比較して、「今後の活動計画の参考となった」と回答した割合が高い。研修により活動とSDGsの関係が整理され、活動内容や組織運営のヒントとしてSDGsを活用しようとする意識が高まったことが示されている。
- 同様に、研修受講後の組織は「行政や他の団体等との連携材料となる」と回答した割合が高く、連携のきっかけづくりや活動のPRにSDGsの活用が有効と考えていることが示されている。
- 「活動内容や取組方法について、行政や有識者等に相談できる機会があるとよい」と回答した割合も高く、行政、専門家等によるアドバイス・支援が期待されていることが示されている。

SDGsアイディアシートについて



【今後の活動計画への活用】

- SDGsを意識した活動をしていなかったもので、今後、改めて活動とSDGsを関連付けて行動していく。
- アイディアシートを参考に自分達で出来る活動を選択してみたい。
- 次期活動計画の策定に向け「地域資源保全管理構想」の内容を検討中であり、参考としたい。

【活動のPR】

- 自分達の活動がSDGsに繋がっていることを作業の合間に伝えたらびっくりすると思う。
- 今後、配布文書やPR用品等にSDGsマーク等を活用する。
- 活動が「SDGs15の目標」に合致していることを広報誌等に積極的にPRする。
- 花植え活動(景観形成)、水路探検(生き物調査)、田んぼダムの取組をPRしたい。

【情報共有や行政、専門家等による支援】

- 定期的に近隣の市町村で情報交換出来るとよい。
- 先進事例集のようなものを作成して欲しい。
- 土地連内部等に有識者等すぐ相談できる窓口があれば助かる。

4. その他の取組

- 多面的機能支払推進室ホームページにSDGsアイディアシートのダウンロードサイトを開設した。
- 本交付金の活動項目から多面版SDGs15の目標がわかるSDGsアイディアシート逆引き表「多面的機能支払 活動－SDGs整理表(案)」を作成し、多面的機能支払推進室ホームページで公開した。
- 今年度末に実施する「自己評価・市町村評価」の調査票と合わせて、SDGsアイディアシートを対象活動組織に配布した。

SDGsアイディアシートのダウンロードサイト

「多面版SDGsアイディアシート(案)」について

「多面版SDGsアイディアシート(案)」は、多面的機能支払の具体的な活動や組織体制・運営方法と各目標の関係をチェックシートの形で整理したものです。各活動組織が実施している取組にチェックを入れて、目標毎のチェック数を数えることで、どの目標の達成にどの程度貢献しているかを簡単に確認できるようになっています。

※「多面版SDGsアイディアシート(案)」は試行中のため、アイディアシートの内容が変更される可能性があります。

多面版SDGsアイディアシート(案)(EXCEL: 516KB)

多面的機能支払 SDGsアイディアシート(案)

SDGs達成に貢献する活動の実施状況を確認してみましょう

※右の項目は、実施報告を参照してチェック可能な項目

①実施している取組にチェックをつけてください

1 資源と環境(地域資源と農村環境の保全等への貢献)

【目標6】地域における水質を保全する。

6.3 水質保全、ゴミ等の廃棄防止、水の循環利用
☐ 畑からの土砂流出防止に努めている
☐ 水質保全等を考慮した施設の適正管理、排水処理等の定期的な点検・清掃、農機具の洗浄、水受けと合わせて環境保全意識を徹底
☐ 下記の活動に取り組んでいる(チェックを付ける)。活動の内容を記載してください。

【目標13】気候変動及びその影響を軽減するための緊急対応を推進する。

13.1 気候変動に対する脆弱性を軽減する。
☐ 土木構造物の点検・点検等により異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)
☐ (農地の見回りや点検等)により、異常気象時等の被害軽減に取り組んでいる(農地維持)
☐ 気候変動等上活動に取り組んでいる(水田貯留機能増進)※
☐ 気候変動等上活動に取り組んでいる(農地維持)※
☐ 下記の活動に取り組んでいる(農地維持)※
 活動内容

13.3 気候変動に対する脆弱性の軽減、水田やため池の貯留機能の活用などによる防災・減災のための普及・啓発を図る。
☐ 防災・減災力の強化に取り組んでいる(農地維持)※
☐ 地域における水田を利用した水田貯留機能増進・地下水かん養を推進している(水田貯留機能増進)※
☐ 連携を図っている(防災・普及活動)
☐ 下記の活動に取り組んでいる
 活動内容

【目標14】海洋・海洋資源を保全する。

14.1 海洋ゴミやプラスチックなどによる海洋の汚染を防ぐ。
☐ 海洋ゴミやプラスチックなどによる海洋の汚染を防ぐ(水質保全)※
☐ 海の定期的な巡回点検・清掃により、海洋ゴミや海の汚染の減少に取り組んでいる(農地維持・生活環境保全)
☐ 水田灌漑水の保全により、水質浄化や海の環境保全に取り組んでいる(水田貯留機能増進・地下水かん養)
☐ 下記の活動に取り組んでいる
 活動内容

【目標15】地域における生物多様性を保全する。

15.5 生物多様性保全のための取組を行う。

活動組織で実施している項目にチェックを付ける。

多面的活動がSDGsのそれぞれの目標にどの程度貢献しているかわかる。

②活動組織のSDGs達成に向けた活動の実施状況を確認してみましょう。

SDGs達成に貢献する活動の実施状況(チェックのついた活動数)														
	Ⅰ 資源と環境				Ⅱ 社会				Ⅲ 経済				地域協働力	
	目標6	目標13	目標14	目標15	目標7	目標11	目標16	目標2	目標8	目標9	目標12	目標17		
														
SDGsの達成へ貢献	0	2	1	1	0	0	2	0	4	0	0	0	1	1
	4				6				1				1	

チェック数が少ない分野の目標に貢献できる活動を、ほかに何かできないか検討してみるといった活用も可能。

SDGsアイディアシート逆引き表(一部抜粋)

多面的機能支払 活動－SDGs整理表(案)

活動項目	説明(具体的な活動等)	目標	多面版15の目標
農地維持			
地域資源の基礎的な保全活動	草刈り、泥上げ等地域資源の適切な保全管理により、持続可能な農業生産を支える	2 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	草刈り、泥上げ等地域資源の適切な保全管理により、異常気象時の被害軽減に取り組む	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
異常気象時の対応	異常気象後の見回り、応急措置を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
研修	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する
地域資源の適切な保全管理のための推進活動	構造変化に対応した保全管理の目標に向けた活動により、持続可能な農業生産を支える	2 飢餓をゼロに	持続可能な農業生産を支える
	構造変化に対応した保全管理の目標(多様な主体・連携型)に向けた活動により、活動組織に参画する主体を増加させる	16 平和と公正をすべての人に	多様な主体の参画による地域づくりを促進する
資源向上(共同:施設の軽微な補修)			
機能診断・施設の軽微な補修	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、安全で災害に強いインフラを作る	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	機能診断による劣化状況等の早期発見、予防保全活動の実施により、施設を長く使う(施設の長寿命化を図る)	12 つくる責任、つかう責任	持続可能な生産・消費を進める
補修技術等に関する研修	補修技術等に関する研修を行い、安全で災害に強いインフラを作る	9 産業と技術革新の基盤をつくろう	災害に強いインフラづくりとそのための技術の開発に貢献する
	補修技術等に関する研修を行い、災害に対する強靱性、対応力を強化する	13 気候変動に具体的な対策を	気候変動及びその影響を軽減するための対策を実践する
	各種研修等に積極的に参加し、国、地方公共団体、関係団体等との連携や技術、情報の共有化を図る	17 パートナリーシップで目標を達成しよう	地域協働の力により目標を達成する

5. 今後の進め方（案）～来年度の方針～

